（様式 3）

# 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

<table>
<tr><td>代 表 者 氏 名</td><td>近藤　恵</td><td>所 属</td><td>大阪医科大学</td></tr>
<tr><td>研究会等名称</td><td colspan="3">日本心理学会死生心理学研究会</td></tr>
<tr><td>成 果 概 要</td><td colspan="3">１）参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）<br><br>会員　　23 名（うち認定心理士　　0 名）<br>非会員　　8 名（うち認定心理士　　0 名）<br><br>２）集会等の目的・成果等<br>（実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）<br><br>研究集会<br>➢ 第 1 回研究会「子どもが死を語るとき」（2017 年 7 月 1 日，中京大学）<br>➢ 発表者：近藤　恵（大阪医科大学）<br>➢ 参加者数：14 名<br><br>➢ 第 2 回研究会「死に意味はあるのか」（2018 年 1 月 20 日，キャンパスプラザ京都）<br>➢ 発表者：浦田　悠（大阪大学）・川島大輔（中京大学）<br>➢ 参加者数：8 名<br><br>学会企画<br>➢ 日本心理学会第 81 回大会公募シンポジウム（2017 年 9 月 21 日，久留米シティプラザ）<br>「子どもと死を共有する―死生心理学の展開（3）逝くときと遺されるときに何が語られ，何が語られないのか―」<br>➢ 話題提供者：川島大輔（中京大学）・多田羅竜平（大阪市立総合医療センター）・辻本　耐（木島幼稚園）・八木俊介（あしなが育英会）<br>➢ 指定討論者：近藤　恵（大阪医科大学）・川島大輔（中京大学）<br><br>➢ 日本発達心理学会第 29 回大会自主シンポジウム（2018 年 3 月 25 日，東北大学）<br>「死を見つめる経験から『生』を捉える―死生心理学の展開（4）死を意識しながら生きるということ―」<br>➢ 話題提供者：岡本祐子（広島大学）・岡崎　伸（大阪市立総合医療センター）<br>➢ 指定討論者：田代志門（国立がん研究センター）<br><br>成果・将来計画等<br>研究会が発足した今年度は，研究会と学会企画を各 2 回ずつ開催し，研究会の内外で活発な情報交換を行った。来年度も，名古屋や京都で複数回の研究会の開催を予定している。また，学会での企画も，日本心理学会他，関連学会のシンポジウム，ラウンドテーブル等を計画中である。</td></tr>
</table>